

“ほっこり”させてくれるヒーロー

■ **東京浅草「ふるさと交流ショップ台東」**
3月12日、出超（出張）で東京は浅草にある「ふるさと交流ショップ台東」に参上してきました。

場所は、浅草寺の裏通り下町商店街。ネイガラの参上を聞きつけて時間前から集まってくる集まってくる。SNSやYouTube広告宣伝をみてかけつけてくれたお客さんも。参上と同時に拍手で迎えてもらい、「まさか東京で本物ネイガラに会えるとは！」というお客さん。ショップには、「秋田出身です」「大館です」「横手です」「秋田市です」「秋田を離れて、大学、就職、お嫁さんになって家族でここに暮らしています」「おばあちゃんが男鹿です」「にかほ市です」「仁高卒です」「宮城です」「九州です」、秋田を離れ都会で頑張っている方たち、その友達までが「ふるさと交流ショップ台東」まで足を運んでくれました。秋田弁でのト

ークで交流。「久しぶりにふるさとに帰ろうかな」と、うれしかったです。

■ **品川あきた美彩館**
3月19日、東京都品川区にある秋田県のアンテナショップ「あきた美彩館」、春まつりに参上してきました。

「オープンする前から店の裏手にもう並んでいます」と、美彩館スタッフ、秋田県スタッフが教えてくれました。参上時間になり、いざ！どこまで行列が続いているんだというぐらいズラ〜と並んでいました。

並んでくれたお客さん一人ひとりと撮影。秋田出身で東京で働いている人、大学生、こっちへお嫁さんになって暮らしにゆかりのある人たちがいっっぱい駆けつけてくれました。お店の中はお客さんでパンパン。お店のスタッフも「こんなに人が来ることはなかなかないな。すごい」と言ってくれました。

「秋田の大館出身です」「横手出身です。小さいときずっと見ていました。シヨ〜にも行きました」「大館同士で東京で結婚しました。大人の人がなりきりセッ

市は、3年前から超神ネイガラとタッグを組んだ、「ゲンキ・リチャージ・プロジェクト」をはじめています。その内容については、ちょうど2年前の市長コラム「みんなを笑顔に〜超神ネイガラの魅力〜(No.32)」で皆さんにお伝えさせていただきましたところ。今回のコラムは、市HPで公開されているネイガラの報告書のうち「東京浅草『ふるさと交流ショップ台東』と「品川ふるさと美彩館」の二つについて紹介させていただきます。



ふるさと交流ショップ台東



あきた美彩館



にかほ市長
市川雄次

トで遊ぶ姿や一人ひとりの喜ぶ様子を見て、県のスタッフ、美彩館のスタッフが「こっちの方がなんだかうれしくなって涙が出る」と「ほっこり」を感じてくれました。

■ **ノスタルジックな存在**
私は、この報告書を読んだとき、胸に熱く迫るものを感じました。ネイガラは子どもたちに大人気であり、子どもたちのヒーローだと思いがちですが、実はネイガラは大人たちにとってのヒーローでもあるのです。特に、ふるさとを離れ、遠くに暮らす人たちにとって、ネイガラはふるさとを感じさせてくれるノスタルジックな存在なのです。

ちなみに、ネイガラが参上したことによる売上効果ですが、浅草のショップについては「3倍の売り上げだったとの情報も、店番の方もびっくりしていました」とのことです。品川の美彩館についても「みんなして秋田の物をいっぱい買って、レストラも常に満席」であったとのことでした。両ショップのスタッフの皆様、ネイガラとその関係者の皆様たいへんご苦労さまでした。そしてショップにおいていただいたお客様にあらためて感謝申し上げます。



情報メディア科3年生（マルチメディア室にて）

Vol. 1 情報メディア科20年

情報メディア科授業風景

マルチメディア室にあるハイスペックPCでプログラミングの授業やポスター制作などを効率よく進めています。



ポスター制作

授業で学んだ技術をいかし、各種イベントの告知ポスターや啓発ポスター等の制作に積極的に取り組んでいます。



平成15年、仁賀保高校に情報メディア科が新設され20年が経ちました。現在でも情報メディア科は県内唯一の学科であり、その特色をいかしポスター制作やプログラミング教室などとおし、より地域と密接な活動をしています。

今年度の授業もスタートし、専門的な学びを自らの向上だけでなく、さらに地域の活性化につなげることができるよう頑張っています。

プログラミング教室

地域の小学校でプログラミング教室を定期的開催。子どもたちに教えることで自らの技術も向上させます。



秋田県立
仁賀保高等学校

当校では、ボランティア活動による地域貢献、情報発信力強化による地域の活力向上など、地域課題の解決に向け「自分たちのまちを、未来を、楽しく面白く」していくためのアイデアを形にしていける取り組みを行っています。

